

FLiCC 開発の背景

前方視野を拡大する機能が、安全対策上から必要とされるようになっていきます。

スマートフォンは、携帯し自由に外出先や移動中でも、インターネット接続して多くの情報に接したり直ぐに対応・処理できるという高いモバイル性能のため、単なる連絡手段にとどまらず、仕事やネットショッピングとその支払い；友人との連絡・SNSを通じたコミュニケーション；ゲームで遊ぶことや音楽配信のダウンロード；クラウドでのデータの保存と活用；及び趣味の世界での利用というように生活のあらゆる場面に関わってきています。また最近では Wi-Fi による家電との連携・管理までできるようになっています。

情報の発信と伝達の面でも影響は大きく、新聞・雑誌の出版物の発行部数の低下、CD、DVD の売れ行き低下、テレビの視聴時間が減少するという傾向がはっきりとしています。そのため、商業ベースでは多くの企業から、大量の情報発信がスマホユーザー向けにされています。双方向性があるので、いまや就・活やリクルート業務にも活用されているほどです。

急速に便利なアプリが増えている中でも、特に集客用のグルメ情報やクーポン付きのお得情報アプリや、地図アプリ、自治体や観光施設の観光案内アプリ、更には防災アプリ等々の利用で、意識せずにスマホ画面上の地図を見つめながら歩いてしまう(歩きスマホする)機会が増えています。 (※歩きスマホの場合には、視野角は1/20に、認知距離は1.5mと非常に視界が狭まり、ぶつかる直前までほとんど気付かない状態となります。==== 小塚一宏教授の研究成果より)

現在ではすでに、ただ観念的に『歩きスマホは危険なので駄目；歩きスマホは止めましょう！』というマナー頼みだけでは問題解決にはならない状況になっています。

現実的な危険解消に少しでも役立つように、機能面からも工夫と対策が必要になっています。FLiCCはスマホ・ケースと専用アプリとの連携によりフロント・ビューアを活用し、画面上で前方周辺の様子を確認できるアシスト機能を提供しています。

何れにせよ現在は過渡期で、歩きスマホは無くならないままに、ごく近い将来にはスマホ本体で、歩きスマホ時の危険を回避するようになると思われます。

※便利なガイドアプリの例：

